

一般社団法人 葛西臨海・環境教育フォーラム
ー葛西臨海たんけん隊「感じる公園ワークショップ」ー

■プロジェクト概要

葛西臨海公園・葛西海浜公園をおもな活動の場として、公園の自然や施設を活用したさまざまなプログラムを提供する参加体験型環境学習プログラム「葛西臨海たんけん隊」を主催。
<http://www.kasairinkai.com/tankentai/index.html>

五感を活用して 自然を学ぶ

「木からの恵み」。聴覚障がい者4名を含む13名が集まり、2班に分かれて園内に設けられた「果実」「材」「葉」のブースを回って植物を体感しました。袋に手を入れ手ざわりで木の実を選んだり、樹皮のにおいや味を試したり。最後に樹木の葉で煎れたお茶を飲みながら体験のまとめと感想を共有しました。

「葛西臨海たんけん隊」は、葛西臨海・環境教育フォーラムが主催する体験型環境学習プログラムです。フォーラムのインタープリターによって、葛西臨海公園・海浜公園（東京都江戸川区）の自然や施設を活用したさまざまなプログラムが行われています。その経験とネットワークを活かして2012年からスタートしたのが「感じる公園ワークショップ」。健常者も障がい者も一緒に参加できるユニークなプログラムです。五感をフル活用して自然を学ぶだけではなく、障がい者と健常者が互いに気づきを得ながらつながる学びの場です。

障がいの有無を問わない
感じるワークショップ



「プログラムを一緒に行うことで進行や小道具のアイデアも広がります」と協働の成果を語る実験植物園研究員の堤千絵さん



異なる樹種で作った木琴で木を体感。「種類によって色も違うし音も違うね!」



プログラムは班ごとに手話通訳がつき、フリップも活用している

「葛西臨海公園は防災公園でもあるため、自然体験だけでなく災害弱者向けプログラムも提供してきたのですが、障がい者の方から健常者と接点を持ちたい、自然体験もしたいという声が出ました。それがこのワークショップの始まりです」とフォーラム理事の宮嶋隆行さん。現在は、夢の島熱帯植物館、アクアマリンふくしま、国立科学博物館筑波実験植物園など、外部施設と協働でプログラムを実施したり、学生や障がい者のインターンを受け入れるなど、ノウハウの共有や普及、人材育成にも力を注いでいます。

フォーラム



視覚障がいのある学生もインタープリターとして参加。「自分と異なる障がいを持つ人から学ぶことも多い」とのこと

連携と人材育成で
プログラムの普及拡大を

地域連携、環境教育
2つの事例から

ESDの実践で見えてきたもの

一般社団法人 大学コンソーシアム石川
ー北陸におけるESD普及のための仕組みづくりー

■プロジェクト概要

石川県内の大学、短期大学、高等専門学校などの高等教育機関が連携して交流や情報発信などを行い、高等教育や地域社会の学術・文化・産業の発展を目指すコンソーシアム組織。
<http://www.ucon-ijp/index.html>

北陸3県をESDで結ぶ 教育連携事業

先生とのESD推進で
ユネスコスクールが普及

石川県内の高等教育機関が集まって教育交流や情報発信、地域連携などを行っている「大学コンソーシアム石川」は、平成20年度から北陸地域でのESDの普及に取り組んできました。北陸3県の大学を中心に、ユネスコ協会、自治体、教育委員会その他教育機関、地域で教育や環境に携わる市民など約20名による「ESD推進連絡協議会」を設置し、さまざまなESDプログラムを開発するとともにESD研究会やシンポジウムなどを開催。

協議会を取りまとめる金沢大学鈴木克徳教授は「活動を始めた当初、文部科学省はESD推進にあたってユネスコスクールの活用を推奨していましたが、北陸地域にユネスコスクールはありませんでした。そこで、まずは学校におけるESDの普及に取り組んでいく」と考えたのです」と振り返ります。地域の教育委員会、ユネスコ協会と密接に連携しながら学校でのESDプログラムの開発などに取り組んだことで、北陸地域のユネスコスクールは8年で87校になり、学校現場におけるESDの優良事例も数多く生まれました。



ESD世界会議併催イベント
校長先生サミットでの北陸の事例紹介



田んぼで泥んこ遊びをする子どもたち



富山の動物園「富山ファミリーパーク」での
シンポジウムの様子

ESD世界会議併催イベント校長先生サミットでの北陸の事例紹介

「虫や蛇がいるような自然環境に子どもや先生は戸惑っていました。活動を重なるうちに自分で遊びを発見するようになり、しだいに自然への理解が深まってきました」と鈴木教授。里山での体験を子どもが親に話すことで、家族の意識にも変化が生まれました。



これまでの取り組みを、学校の現場や他地域でも活かせる資料にまとめ、WEB等を通じて公開する予定

新たなコンソーシアムで
北陸のESDを
さらに元気に

地域の動物園や博物館などと連携してESDのプログラムを実施する仕組みづくりや、地域の大学とNGOとが協働して生物多様性をテーマとした自然体験活動などを展開。金沢大学キャンパス内の里山で幼児の自然体験プログラムを実施したのはその一例です。「虫や蛇がいるような自然環境に子どもや先生は戸惑っていました。活動を重なるうちに自分で遊びを発見するようになり、しだいに自然への理解が深まってきました」と鈴木教授。里山での体験を子どもが親に話すことで、家族の意識にも変化が生まれました。

ESD、
未来への指針